

# LAYANG LAYANG

## 7-8月の出来事

### 福祉分野のボランティアが活動を国際会議で発信

7月31日から8月2日にかけて、特別支援教育国際会議がサラワク州クチンで開催され、東南アジアを中心に、日本やイギリスなど30ヶ国以上の教育関係者の参加がありました。会場では、JICAマレーシア事務所のブースを設け、ボランティアの活動の様子や彼らが作成した教材・自助具の紹介を行いました。ブースを訪れた方々は、身近にある材料から教材が作製できること、遊びを通して学ぶことの重要性に興味深げに聞き入っていました。



ブース内の様子と紹介した教材や自助具(ボランティア作成)

### パームオイル工場からの排水による水質の汚濁回避に貢献



水質浄化装置の引渡式

実際に使われている水質浄化装置

7月24日、阪神動力機械の水質浄化装置を、マレーシアのパームオイル委員会に供与しました。マレーシアでは、パームオイル工場からの排水の放出可能基準値が定められていますが、従来の装置では、理想的な数値まで安定的に浄化することが困難でした。本装置により、理想的な水質浄化レベルを安定的に達成することが可能となります。

「パームオイル工場の排水処理高度化・資源循環利用普及・実証事業」 期間：2015/4 - 2017/7 マ側機関：パームオイル委員会

### 隣国インドネシアにおける高齢者支援の現状から学ぶ

7月30日から8月8日まで、プロジェクトにおける活動の一環として、主に社会福祉局の職員からなる行政官21名のグループがインドネシアを訪問しました。インドネシアでは、福祉省との意見交換やNGOの活動の視察などが行われました。マレーシアとインドネシアは、経済発展の状況は若干異なるものの、高齢化率は近く、ムスリムといった文化社会的共通性もあることから、参加者にとっては有益な機会となりました。



マレーシアとインドネシアの関係者

「高齢化社会に向けた地域社会に根差したプログラム及び社会的支援の構築プロジェクト」 期間：2015/11 - 2017/11 マ側機関：社会福祉局

## トレンガヌ大学で実験室整備、研究の進捗を関係者一同で確認



実験室の開設式と一堂に会した両国のプロジェクト関係者

7月11日、トレンガヌ大学において、本プロジェクトの進捗を確認する関係者の会議が行われ、併せて、同大学に開設されたプロジェクト用の実験室の開設式が催されました。プロジェクトでは、養殖産業から排出される汚泥・汚水から栄養類を回収し有用物質を効率的に生産する微細藻類と、その成長を促進する物質を探索し、現地に適した大量培養技術を確立することで、経済と環境保全を両立させる循環型システムの構築を目指しています。すでに、有用微細藻類の収集と成長促進物質の研究が進み始めており、今回の会議では目標に向けて着々と活動が進んでいることが確認されました。

「微細藻類の大量培養技術の確立による持続可能な熱帯水産資源生産システムの構築プロジェクト」 期間：2016/3-2021/3  
 マ側機関：マレーシア・フトラ大学（UPM）・トレンガヌ大学（UMT）・セランゴール州立大学（UNIISEL）

## 多くの生徒・学生の皆さんの訪問を受けて

マレーシアでは、日本の夏休みにあたる7～8月にかけて、11団体、130名以上が、JICAマレーシア事務所あるいはJICAプロジェクト/ボランティアの活動現場を訪問し、日本の国際協力について説明を受け、実際に体験するなどしました。参加者にとっては、将来の進路を考える上での参考にしたり、マレーシアや国際協力について理解を深める機会となったようです。



ボランティアの活動サイトで文化体験

プロジェクトサイトで現地学生と交流

### その他のニュース

●マレーシアの廃棄物問題に北九州の中小企業が挑む！

<https://www.jica.go.jp/kyushu/press/ku57pq00000ggt2h-att/ku57pq00000h81kl.pdf>

●マレーシアの先生ら、京都市の小学校訪問

<https://www.jica.go.jp/kansai/press/ku57pq00000gty3x-att/ku57pq00000hi4o6.pdf>

●【草の根技術協力事業 地域活性化特別枠】マレーシア下水道公社の下水処理・水質管理技術者8名を招へいし研修を実施しました

<https://www.jica.go.jp/tokyo/topics/2017/ku57pq00000hi6s3.html>

## マレーシアの精神障害者支援

近年、マレーシアでは、精神保健分野への関心の高まりとともに、精神障害のある方々へのサポートや就労支援の輪が広がりを見せています。クアラルンプール郊外のスラヤン病院精神科では、2011年から青年海外協力隊員（以降、ボランティア）が派遣され、病院職員とともに就労支援に取り組んでいます。現在も、3代目となるボランティアが2017年7月から活動しています。マレーシアではMentari（マレー語で太陽の光）と呼ばれる精神障害者地域支援センターが、保健省により全国22ヶ所で整備されています。こうしたセンターは、コミュニティに根差した支援ができるように、住宅街の中など日常生活圏内に設置されています。スラヤン病院は、そうした支援拠点を運営する病院の先駆けで、指導的な役割を果たしている病院です。2011年からボランティアとともに活動してきた同センターの責任者は、マレーシアにおける取り組みを以下のように語ります。

「6年前に初代ボランティアが配属され、病院初となる3名の就職支援に成功しましたが、それ以来、ボランティアと共に事前準備の重要性を学びながら、雇用主との関係づくり、就労希望者個人にあわせた業務内容の調整について取り組んできました。また、地域の商業エリアや中小工場エリアを歩き回り、理解のある雇用主を開拓したり、毎週忙しい合間を縫っては、病院で就労支援カウンターでの対応を行いました。状態が安定している方には、もちろんゆっくりとですが、就労支援についての話をするなどの試みも行いました。

いつも前向きなボランティアの姿勢を近くで見ることで、私たちは更に意欲が高まり、新しい雇用主や関係者と積極的に関わられるようになりました。ボランティアが2年間という長期間、日本を離れ、海外の障害をもつ人たちのために活動しているということだけでも、多くの雇用主や関係者に良い影響をもたらしたと感じています。

これまでの経験の中で、家族や地域のサポート、医療的な支援を得ることで精神障害を持つ方々の状態が飛躍的に改善する状況を見てきました。今後も障害を持つ方々へ、より多くの機会の提供と支援を続け、最終的には彼ら自身が声を上げることができればと願っています。」

（聞き手：ボランティア調整員 渡辺 幸）

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

### JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)